



®環境省

エコアクション21

認証番号 0007812

エコアクション 21

環境活動レポート

実施年月日 平成26年7月1日～平成27年6月30日

発行日 平成27年10月15日



トンボ学生服

 北海道トンボ株式会社

トンボクロージング株式会社

目 次

1 会社名及び代表者名	1
2 所在地	1
3 環境管理責任者及び事務担当連絡先	1
4 事業内容及び事業年度	1
5 事業規模	1
6 環境方針	2
7 環境目標及びその実績(7月-6月)	3
8 環境目標及びその実績(3年間)	4
9 主要な環境活動計画の内容	5
10 環境活動の取組結果の評価、次年度の取組内容	6
11 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに 結果並びに違反、訴訟等の有無	6
12 代表者による全体評価と見直しの結果	7

1. 会社名及び代表者名

北海道トンボ株式会社
 トンボクロージング株式会社
 代表取締役社長 八 杉 幸 治

2. 所在地

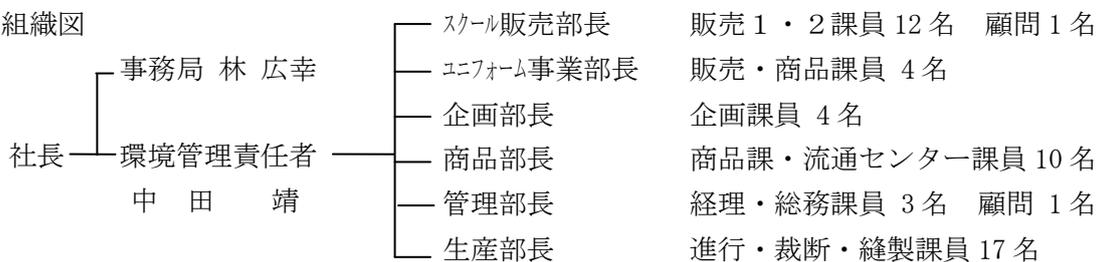
〒060-0906 札幌市東区北6条東5丁目1番7

3. 環境管理責任者及び事務担当連絡先

環境管理責任者： 中 田 靖
 事務局担当者： 林 広 幸

連絡先 Tel 011-742-2551 FAX 011-731-1176
 (E-Mail) yasushi.nakata@tombow-net.co.jp

※組織図



4. 事業内容及び事業年度

- ・ 繊維製品製造・繊維製品卸・繊維製品小売
 (スクールユニフォーム、スポーツウエア、ビジネスユニフォーム、介護ウエアなどの
 企画、製造、販売)
- ・ 事業年度 7月1日～6月30日

5. 事業規模

活動規模	単位	49期	50期	51期
売上高	百万円	1,721	1,743	1,647
生産量(縫製部門)	百万円	271	283	293
小計	百万円	1,992	2,026	1,940
従業員	人	42.5	40.5	38
縫製部門	人	17	18	18
小計	人	59.5	58.5	56.0
床面積	m ²	4,096.98	4,096.98	4,096.98
敷地面積	m ²	2,137.08	2,137.08	2,137.08

6. 環境方針

基本理念

北海道トンボ株式会社及びトンボクロージングは、製品のブランド「トンボ」を旗印として、最良のユニフォームメーカーをめざし、地球環境の保全が最重要課題の一つであることを全社員で自覚し、次世代に向けてトンボが雄飛する美しい地球環境のもと、豊かで住みよい循環型社会を実現する企業活動を展開し、社会に貢献します。

行動指針

1. 環境経営システム(環境マネジメントシステム)の確立と継続的改善の推進
私達は、環境省が策定した「エコアクション 21」に基づいた環境経営システムを構築し、実施し、維持し、定めたテーマに沿って、環境パフォーマンスの継続的な改善活動を推進します。
2. 環境保全活動の推進
私達は、環境に与える影響を認識し、評価し、汚染の予防を含めて、環境影響を考慮した企業活動を展開します。
3. 環境上の法的要求事項及びその他の要求事項の遵守
私達は、当社の環境側面に関して適用可能な法的要求事項及び当社が同意するその他の要求を遵守します。
4. 企業活動の展開
私達は、ユニフォーム等の企画、設計、製造、販売において、環境影響を考慮し、また地球温暖化防止に向け、日常業務と一体化した活動を展開します。
 - ① 環境に配慮した素材の導入と製品開発、販売の推進。
 - ② 使用原材料に含まれる有害物質の安全基準の遵守。
 - ③ 資源の有効活用及び省エネルギーの推進によるCO₂排出量の削減。
 - ④ 廃棄物排出量の削減及び3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進。
 - ⑤ ガソリン・軽油使用量の削減。
5. 自然保護活動の推進
私達は、以下の自然保護活動を推進します。
 - ① トンボ環境委員会活動の推進
NPO法人「カラカネイトンボを守る会」の協賛支援
ナショナル・トラスト運動による篠路福移湿原の保護・保全運動
社会福祉法人札幌市社会福祉協議会ボランティア研修センターの支援
 - ② トンボ絵画コンクールへの支援
 - ③ トンボと自然を考える会への協賛支援
6. 環境方針の周知徹底と公開
環境方針は、社員並びに当社の企業活動への協議者に環境教育を通して周知し、全員が理解、実践できるよう啓発活動を推進します。
また、この方針は広く一般の人々に公開して、社会と共生する環境活動を推進します。

2013年9月1日宣言

北海道トンボ株式会社
トンボクロージング株式会社
代表取締役社長 八杉 幸治

7. 環境目標及びその実績

北海道電力の二酸化炭素排出数 (0.683 kg-CO₂/KWh)

①今年度の目標とその実績 (平成 26 年 7 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日)

環境目標項目		単位	基準値 50 期実績	51 期目標	51 期 H26.7.01 H27.6.30
温室効果ガス 排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	182,591.51	180,757.29	232,398.79
		kg-CO ₂ /百万円	90.12	89.22	119.79
	一般廃棄物	ℓ	123,480	122,249	96,920
		ℓ/百万円	60.95	60.34	49.96
	産業廃棄物	t	0.59	0.59	3.82
		ℓ/百万円	0.0003	0.0003	0.002
総排水量	下水道	m ³	656	656	638
	上水	m ³	656	656	638
		m ³ /百万円	0.32	0.32	0.33
化学物資使用量	PULLEYOIL	ℓ	0	0	0
	メチレンクロライド	kg	0	0	0
エネルギー使用量 MJ にする場合は kWh×3.6	購入電力	MJ	2,279,115.97	2,256,315.68	2,527,991.32
		MJ/百万円	1124.93	1113.68	1303.09
	ガソリン	MJ	872,151.47	863,440.68	785,878.10
		MJ/百万円	430.48	426.18	405.09
	軽油	MJ	61,165.84	60,557.14	58,494.13
		MJ/百万円	30.19	29.89	30.15
	化石燃料 計	MJ	933,317.31	923,997.82	844,372.23
		MJ/百万円	460.67	456.07	435.24
総製品生産量 または 総商品販売量	製品生産量等	製品点数	495,921	495,921	472,513
	環境負荷低減に 資する製品等	点	43,893	54,551	41,694
			8.85%	11.0%	8.82%
	容器包装使用料	t	0.239	0.239	0.281
		t/百万円	0.0001	0.0001	0.0001

※基準値および目標の基準値売上は 2,026 百万円 当期基準値売上は 1,940 百万円

※目標数値は前年度立案の中期環境目標値を前年度実績に適用

8. 環境目標及びその実績

北海道電力の二酸化炭素排出数 (0.517 kg-CO₂/KWh)

3年間の実績

環境目標項目		単位	49期 H24. 7. 01 H25. 6. 30	50期 H25. 7. 01 H26. 6. 30	51期 H26. 7. 01 H27. 6. 30
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	193,248.65	182,591.51	232,398.79
		kg-CO ₂ /百万円	97.01	90.12	119.79
	一般廃棄物	ℓ	156,375	123,480	96,920
		ℓ/百万円	78.5	60.95	49.96
	産業廃棄物	t	0.54	0.59	3.82
		ℓ/百万円	0.0002	0.0003	0.002
総排水量	下水道	m ³	627	656	638
	上水	m ³	627	656	638
		m ³ /百万円	0.31	0.32	0.33
化学物資使用量	PULLEYOIL	ℓ	9	0	0
	メチレンクロライド	kg	17	0	0
エネルギー使用量 MJにする場合は kWh×3.6	購入電力	MJ	2,341,971.06	2,279,115.97	2,527,991.32
		MJ/百万円	1175.69	1124.93	1303.09
	ガソリン	MJ	973,275.51	872,151.47	785,878.10
		MJ/百万円	488.59	430.48	405.09
	軽油	MJ	69,403.29	61,165.84	58,494.13
		MJ/百万円	34.84	30.19	30.15
	化石燃料 計	MJ	1,042,678.8	933,317.31	844,372.23
		MJ/百万円	523.43	460.67	435.24
総製品生産量または 総商品販売量	製品生産量等	製品点数	469,488	495,921	472,513
	環境負荷低減に 資する製品等	点	41,161	43,893	41,694
			8.77%	8.85%	8.82%
	容器包装使用料	t	0.303	0.239	0.281
		t/百万円	0.0001	0.0001	0.0001

※一般廃棄物についてはゴミ袋の容量で計算しています。

②中期環境目標

環境目標項目	52期環境目標	53期環境目標	54期環境目標
二酸化炭素削減	1%削減	1%削減	1%削減
119.79 kg-CO ² /百万円	118.59 kg-CO ²	117.40 kg-CO ²	116.23 kg-CO ²
エネルギー使用量削減	1%削減	1%削減	1%削減
1,303.09MJ/百万円	1,290.06MJ	1,277.16MJ	1,264.39 MJ
一般廃棄物削減	1%削減	1%削減	1%削減
49.96ℓ/百万円	49.46ℓ	48.99ℓ	48.50ℓ
自動車燃料削減（走行距離）	1%削減	1%削減	1%削減
ガソリン 405.09MJ/百万円	401.04 MJ	397.03MJ	393.06MJ
軽油 30.15MJ/百万円	29.85MJ	29.55MJ	29.25MJ
環境負荷低減に資する製品等	販売数の12%	販売数の12%	販売数の12%
41,694/472,513点 9.09%	56,701点数	56,701点数	56,701点数
環境に配慮した商品	20品目以上	20品目以上	20品目以上

27年度売上高1,940百万円)を基準値とします。

※環境負荷低減の基準値472,513点数とする。

※水使用量は、トイレ・給湯室の使用量が少ないので目標数値に入れていません。

※化学物質は、マシン油の年間使用量、毎年9ℓと同じ量ですが機械特性上削減が難しいので目標数値に入れておりません。

※全てのMJ係数は認証初年度の平成19年度数値に準拠しています。

9. 主要な環境活動計画（環境への取組）の内容

(1) 環境目標を達成するための行動内容

①エネルギー使用量の削減（電気・ガソリン使用量の削減）

- ・使用していない会議室・応接室・商品管理ホール・廊下・休憩室
各部門の机の上の照明を消すこと。
- ・エレベーター使用について
- ・貨物用エレベーター使用制限、人のみでは利用しない
- ・エレベーターの登り降りしたままとする。
- ・エアコンフィルターの清掃 年3回(4・9・12月)
- ・複写機・FAX・パソコン・エレベーター(お客様用)待機時省エネモードに設定
- ・コピーは、プリントが許容されるものは両面コピーをする。
ミスプリントなどは、裏紙を利用する。
- ・水の使用量は少ないが、水の節水に努力する。

②温室効果ガスの削減（モーダルシフトの推進）

③環境配慮型商品の販売と仕入（エコ商品の販売、仕入の増加）

※エコ商品とは、エコマーク適合商品を使用する。

- ④廃棄物の分別徹底、リサイクルできるものは資源活用（D Sの削減）
古紙・プラ・混合プラ、ペットボトル、スチール、ビンガラス
- ⑤環境活動の告知
- ⑥自然保護活動の推進（カラカネイトトンボ守る会活動の参加促進）

1 0. 環境活動の取組結果の評価、次年度の取組内容

(1) 環境目標を達成するための行動内容の評価と次年度の取組内容

- ①暖房の室内温度設定22℃、冷房は28℃で実施しました。継続。
- ②防火シャッター1階・4階を閉じ開閉をしない実施中。(但し1階中央は開ける)継続。
- ③使用していない会議室・応接室・商品管理ホール・廊下・休憩室、各部門の机の上の照明を消すように全員で実施しました。継続。
- ④エレベーター使用について、貨物用の人だけの使用徹底されていないので、再度徹底をする。
エレベーターの登り降りにしたままについては、徹底されていた。継続。
- ⑤エアコンフィルターの清掃は、5月・12月に2回清掃しました。9月は未達成。
今後10月・12月・5月実施。
- ⑥複写機・FAX・パソコン・エレベーター(お客様用)省モードに設定しています。継続。
- ⑦コピーは、プリント許容されるものは、両面コピーを実施していました。
裏紙使用についても、許容されるものは実施しています。使用量の把握ができませんでした。
- ⑧水道の使用量は、年間18 m³の節水に成功しました。
- ⑨エレベーターの使用を控え、健康の為に階段を利用する人が増えました。
- ⑩6月2日から9月30日までクールビス実施。

1 1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適用法規	遵守状況
廃棄物処理法	適法
一般廃棄物処理法	適法
産業廃棄物処理法	適法
ビル管理法	適法
電気事業法	適法
消 防 法	適法
建築基準法	適法
環境基本法	適法
道路運送車両の保安基準	適法
化学物資審査処理法	適法

※尚、これまでの過去においても関係当局による違反、訴訟等の実績はありません。

1 2. 代表者による全体評価と見直しの結果

昨年9月より、それまで所属していた札幌繊維卸センターが解散、取り壊しとなったために当社ビルが独立運営していく事となりました。これに伴って独自のビル管理環境が必要となり、関わる法規、実務など新たな基準が必要とされる初年度となっています。

売上の減少や、それまで共有部分として加算されなかった階段室、地階、エレベーターなどの電気使用量が追加されるなどマイナス要因が多い一年でしたが、一貫して節電、業務の効率化を図る努力は継続されています。

- ・ 温室効果ガス排出量は前期比 127.289% 電力使用量は前期比 110.92% と省エネ目標をオーバーしました。要因は繊維卸センター解散によるかつての共有部分が加算されたためです。
しかし、一方で自動車燃料の使用量を毎年削減できています。
懸案となった電力エネルギー使用量の削減はまだ可能と思われるので、努力継続します。
エコ商品は売り上げ減に伴って微減となりました。
- ・ 一般廃棄物は廃棄物の徹底した分別によって昨年比 78.5% と大きく削減できました。
- ・ モーダルシフトの増加目標、総仕入個数の 14% 目標に対し実績 13.0% で未達成。
売上金額の減少もあり、目標値の見直しが必要と思われます。
- ・ DS 商品の目標は 1% 以内に抑える目標に対し、1.63% で未達成。
生地提供は 4 校の学校に提供しています。
- ・ エコ商品の販売は総点数の 10% を目指しましたが、8.82% にとどまりました。
- ・ グリーン購入 11 品目以上に対し、26 品目以上購入で目標は達成。
- ・ 岩見沢農業高校と残布による農業用マルチシートを使う共同研究を行っています。

TOMBOW

 北海道**トンボ**株式会社

トンボクロージング株式会社